

平成二十四年度の新理事
改選される

4月の総会で平成二十四年度の新しい理事が承認されました。新しい理事によりAAFCの活動方針の作成、運営がなされます。

立候補を募りましたがどなたも応募されなかつたので、旧理事を中心に相談しながら新理事を選出いたしました。

これからの2年間、AAFCが更に発展と活発な活動がなされるように、新理事一同誠心誠意努力して参る所存です。会員の意見、要望などを出来るだけ取り入れ、オーディオ、音楽を通じて会員相互の親睦、交流を図りたいと思います。

会員の皆様の熱いご支援、ご協力を頂きAAFCの更なる発展を期して参りたいと考えております。

役割、氏名は左記の通りです。二年間よろしく願い申しあげます。

二〇二二年度 AAFC新理事の
紹介

会長	佐藤 久男
副会長	脇田 隆夫
顧問	高橋 敏郎…新任
幹事長	山本 一成
理事(ウエブ)	
理事(マスター)	堀端 俊雄
理事(行事)	後藤 榮一
理事(編集)	倉田 勲
理事(会計)	大久保 貴枝子
理事(技術)	鳥居 康信
理事(総務)	福林 羊一…新任

会長

恒例のクラブ主催のコンサート
『フラメンコとオーディオの集い』
が開催される

昨年は東日本大震災が発生、日本国内が自粛ムードとなり、毎年恒例であった我がクラブ主催のコンサートは会場確保の問題もあり中止を余儀なくされた。

今年になって会員の開催への意欲が盛り上がり、開催の方向で会員の意思統一が計られた。いつも悩まされるのが会場確保だが、何とか5月19日(土)に開催のめどが立った。

早速実行委員会を結成、後藤総合プロデューサー、鳥居実行リーダーが主体となり実施に向け準備がスタートした。

毎年のようなプログラムにするか頭を悩ますのだが、今年是我々の活動プラス「フラメンコ演奏」を取り上げることに早々と決定した。我孫子市民もフラメンコ演奏を間近で鑑賞することが少ないだろうとの判断もあった。タイトルも「フラメンコとオーディオの集い」とし、上野会員デザインで素晴らしいインパクトのあるポスターも仕上がった。

しかし、その後も「周到な準備が成功の道」とばかり会員皆が気を引き締めて取り組みを継続。

そもそも我がクラブが何故毎年コンサート(11回目)を開催し続けてきたのか。その想いと言えは…

- 1) 我がクラブの活動を市民に知ってもらう、会員増加につなげたい。
- 2) 生演奏の迫力、素晴らしさを市民に伝えたい。
- 3) オーディオの楽しさを伝えたい。
- 4) 会員の結束力を確かめる。

などの事柄を念頭に置いての事と云ってよい。

さて、当日(5月19日)を迎え、我々の活動を後押ししてくれるかのように天気も快晴であった。嬉しい事にお客様の出足も良く上々のスタートが切れる事となった。

第一部は2部構成で前半は「蓄音機からデジタルオーディオへ」と題し、蓄音機時代では小笠原会員力作の自作蓄音機で小笠原会員と後藤会員のSPレコードを披露、LP、CD時代では石井会員の定評ある改良アンプの紹介、最先端デジタルオーディオ時代では石田会員がルビジウムクロックを使用したデジタル再生装置だけでなく、スピーカーを兼ねて、全て自作のシステムを披露した。いずれもお客様の関心を誘ったのではないかと感じている。

後半は模擬例会と称して例会の雰囲気を高橋会員、大久保会員の発表で来場者に披露した。

会場には我々の活動の経緯をパネルに掲示し、更に現物の展示コーナーを設け、高橋会員の著書類のほか林、小川、鳥居、上條、鳥居各会員の手作りのアンプ、ターンテーブルボード、カーボンアクセサリー等を展示し、お客様の興味を引いた事と思う。

左の写真はコンサート会場の様子



第二部はお待ちかねプロの演奏者を交えたフラメンココンサート。ギター演奏、女性のカンテ、7名の踊り手による迫力ある演奏にすっかり来場者も引き込まれ会場が一気に盛り上がった。後日会場にたいた女性からわざわざ感激の電話が会長のもとへあったという事実がそれを物語っていると思う。

今回は、盛りだくさんのプログラムと時間配分もタイトで心配されたが、演奏者も、来場者も満足して頂けたのは、会員同士の素晴らしきチームワークで成し遂げられたのだと思う。手作りのコンサートではあったが、会場設営、録音、ミキシング、照明、受付のお客様の誘導、時間運営等々どれも滞りなくスムーズに終了出来たのは驚くばかりであった。

つくづく、我がクラブの会員は多士済々、経験豊富な方ばかりだと再認識できたコンサートであった。

ただ一つ残念だったことは、当日市内全域で断水騒ぎという不測の事態が発生フラメンコ出場者を交えての「打ち上げ会」が中止になったことである。

写真はフラメンコ実演の様子より

